

## 再々評価個表

|          |   |      |  |
|----------|---|------|--|
| 事業名      | 広域河川改修事業  | 事業主体 | 愛媛県  |
| 施設・工区名等  | (二) <small>きんせいかわ</small> 金生川   | 事業箇所 | <small>しこくちゅうおうしきんせいちやう</small> 四国中央市金生町<br><small>かわのえちやういじ</small> ～川之江町井地 |
| 事業主旨     | <p><small>きんせいかわ</small>二級河川金生川は、<small>しこくちゅうおうし</small>資産が集積する四国中央市の中心市街地を流下しており、治水重要度が極めて高く、また周辺住民による利用度も高い河川である。このため、本事業では河道断面の拡大や堤防の質的強化及び横断工作物の改築を行うことにより、洪水被害の低減を図り、住民生活及び生産活動の安定を図るものである。</p> |      |  |
| 再評価の実施理由 | 「再々評価実施後5年が経過して継続中」の交付金事業   |      |  |

### 1. 流域の概要

きんせいかわ金生川は、徳島県との県境である境目峠に端を発して東から西へ流下し、北は香川県境の標高500m前後の丘陵地と南はどうざんがわ銅山川との間を隔てる700m～800mのほうおう法皇山脈の水を受け、四国中央市の平野部に至ってその流路を北西方向へ転ずる、流域面積58.6km<sup>2</sup>、流路延長13.2kmの二級河川である。流域のうち約90%が山地で占められる急流河川である。また、流域はすべて四国中央市域に含まれ、旧川之江市の市域面積の約86%を占めている。

### 2. 事業概要及び事業経緯

|         |  |      |       |
|---------|--|------|-------|
| 事業採択    | 昭和39年  | 完成予定 | 平成30年 |
| 用地着手    | 昭和39年  | 工事着手 | 昭和39年 |
| 全体事業費   | 3,400百万円(うち用地費:967百万円)   |      |       |
| (1)事業概要 | 計画延長5,010m、掘削60,280m <sup>3</sup> 、築堤29,700m <sup>3</sup> 、護岸工6,563m、道路橋6橋、床固工1基、水路工145m |      |       |
| (2)事業経緯 | 昭和39年 中小河川改修事業採択、用地着手、工事着手   |      |       |

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>(1)事業の必要性</b>          | <p>金生川は、計画規模に対して、依然流下能力が小さい区間や、堤防が破堤する危険性が高い区間が残っており、治水ポテンシャルが低い。古くは昭和20年において甚大な浸水被害が発生しており、近年においても平成16年の豪雨により13戸の浸水被害をもたらされている。このため、現況河道の河積拡大と堤防の質的向上を図ることで、洪水被害を解消する必要がある。</p>                 |
| <b>(2)事業の整備効果</b>         | <p>金生川は、年超過確率1/50(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%)である)の規模の洪水を安全に流下させることを目的に河川改修を行っており、これにより家屋535戸、農漁家2戸、農地2.1ha、事業所70箇所の浸水被害を軽減できる。</p>   |
| <b>(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化</b> | <p><b>【地域の協力体制】</b><br/>         浸水被害に対する改修効果は地元が大きく評価されており、周辺住民、地権者、利水関係者ならびに周辺市域からの協力体制が得られている。</p> <p><b>【地域の事業に対する社会的評価】</b><br/>         地元における浸水被害軽減に対する改修の効果は高く評価されており、整備の完了が求められている。</p> |

### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

|                              |  |
|------------------------------|--|
| <p>(うち用地費)<br/>H24末投資事業費</p> | <p>(732百万円) [進捗率：75.7%](事業費換算)<br/>         2,685百万円 [進捗率：79.0%](事業費換算)</p>                                    |
| <b>(1)事業の進捗状況</b>            | <p>平成24年度末において、事業進捗率は、79.0%用地買収については75.7%の進捗率となっている。また、整備済延長は4.6kmであり、特に問題もなく整備が図られており、今後とも順調な事業の進捗が見込まれる。</p> |
| <b>(2)これまでの整備効果</b>          | <p>下流より約4,600mの量的整備がほぼ完了した結果、近年甚大な洪水被害が発生しておらず、河川改修事業における浸水被害の軽減が図られている。</p>                                   |
| <b>(3)今後の事業進捗の見込み</b>        | <p>地元の協力体制も整っており、今後とも順調な事業進捗が見込まれ、平成30年度事業完了に向けて事業の進捗を図る。</p>  |

## 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

### （1）費用便益比

C：総費用 6,806百万円

・建設費 6,506百万円

・維持管理費 300百万円

B：総便益＝ 8,454百万円

・一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所、農漁家）及び農作物被害

・公共土木施設等被害（国道192号線、おおのはらかわのえ県道大野原川之江線）等

・間接被害（営業停止損失、家庭・事業所の応急対策費用）

・想定氾濫区域内の資産

・残存価値

家屋 535戸 農漁家 2戸

事業所数 70事業所 農地 2.1ha

（建設業・小売業等）

$$B/C = 8,454 / 6,806 = 1.24$$

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

工事施工に当たっては、埋戻材料及び盛土材料に建設発生材を有効活用し、コスト縮減を図る。

また、残土搬出については、公共工事間流用が図れるよう、各関係機関との情報交換を積極的に行なう。

## 7. その他

工事の施工にあたっては、自然環境及び河川利用の実態の把握に努め、治水面及び利水面との調和を図る。

## 8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。